

基本方針 1 「豊かな田園文化の継承と水田農業革命の実現」

これまで築き上げてきた田園文化を継承しつつ、農産物販売額の拡大を図っていくため、稲作を基幹としながら園芸特産物の生産拡大と認証・販売戦略によるブランド化、加工等による付加価値増進により、水田農業を変革し豊かな農村地域を構築します。また、地域住民、特に子どもたちが農業の未来に関心を持ち、魅力を感じ、地域への誇りと愛着を育めるよう人と環境にやさしい農業の取組みを継続します。

加えて、これまで築き上げてきた首都圏大学との連携や優れた人材を輩出し、地域の農業を支えてきた庄内農業高等学校が、さらに魅力ある学校として発展することを支援するとともに、地域の活性化を図るため、教育機関との連携を強化します。

具体的な展開方策（1） 藤島発！！鶴岡の米プロジェクト		【着眼点との整合：オンリーワンを目指すプロジェクトの実施】																											
<p>藤島地域が保有する農業関連資源や有機認証のノウハウなどをフルに活用して、農家と地域の消費者の双方で支える仕組みを構築するとともに、国内屈指の良質米産地として、さらなる産地イメージの向上を図ります。</p> <p>また、地元の家畜糞から良質な堆肥を生産し、耕種農家との連携により農地への還元を図ります。</p>	<p>○主な施策</p> <p>①作る人食べる人双方で支える地域農業</p> <p>有機農業を始めとする「人と環境にやさしい農業」については、地域及び首都圏の消費者にPRし、藤島から発信する産地ブランドとして流通拡大を図ります。また、鶴岡市が認証機関であることを活かし、藤島独自のローカル認証規格を設立し、地域固有の物語を加えたブランドとして、地域の有機栽培米や特別認証栽培米の生産流通を増やします。</p> <p>加えて、コンクール受賞歴のある農家からの指導や関係機関などとも連携を図り、今後のコンクール上位入賞を目指せる若手農業者の育成なども視野に入れ、地域農業のイメージアップを図ります。</p> <p>また、大規模生産者の増加に対応するため低コスト・省力化技術等の実証展示を行い、技術を活用できる環境整備を図ります。</p> <p>②JAS有機農産物・特別栽培農産物の拡大</p> <p>現在、藤島地域の有機特裁割合は地域全体の53%となっており、今後も農薬や化学肥料に頼らない有機農産物や特別栽培農産物などの普及拡大を推進していきます。特に有機農業への取り組みについては、土壌分析による適正な堆肥施用や総合的に栽培をマネジメントできる有機農業エンジニアを育成することにより収量増加や品質向上を図ります。</p> <p>また、有機農業では、除草技術を確立することが重要であるため、今後も技術導入や実証圃の展示を行うとともに、新規取り組み者や希望する慣行栽培農家等については、豊かな経験を有する農家より技術支援を行います。また、有機栽培等へのステップアップを進めるため、地域内に有機栽培サポートエリアを設け、計画的な栽培面積の拡大も図ります。</p> <p>③安全農業経営体の育成</p> <p>農業生産工程管理（GAP）は、食品安全、環境保全、労働安全等の持続性を確保するための工程管理であり、作業環境や経営の改善につながる取組です。</p> <p>山形県版GAPは約50項目の点検項目で取り組みやすいことから、藤島地域のすべての農家が県GAPに取り組むことを目標に推進し、地域ぐるみで農産物の安全性確保の取り組みレベルを向上させ、藤島産農産物のイメージアップを図ります。</p> <p>④良質堆肥の生産、及び農地還元</p> <p>消費者が信頼できる農産物を安定して生産するためには、水田や畑の土を健康に保つことが栽培の基本となります。そのため、堆肥等の良質な有機物を施用し、土を柔らかくし根の育成を良くするとともに、土に含まれる養分や生息する生物相を改善するなど、土の健康を保つ上で有効な手段を講じる必要があります。</p> <p>本事業により、地元の家畜糞から良質な堆肥を生産し、耕種農家との連携により農地への還元を図ります。</p>	<p>○具体的な事業</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>主な内容</th> <th>区分</th> <th>未来事業の選択</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①人と環境にやさしい農業推進事業</td> <td>・消費者交流と首都圏イベントへの参加 ・ローカル認証によるブランド化 ・低コスト省力化等実証圃設置 ・成分分析 ・取組み農家・組織の育成 ・お米コンクール上位者による産地米のイメージアップ</td> <td>新規</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>②-1オーガニック・エコ農産物産地拡大事業</td> <td>・有機農業へのステップアップ支援 ・ブランド化推進 ・首都圏消費者へのPR ・研修会の開催 ・有機展示圃の設置</td> <td>新規</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>②-2鶴岡市農産物認証事業</td> <td>JAS有機・市独自特裁認証</td> <td>継続</td> <td></td> </tr> <tr> <td>③安全農業イメージアップ事業</td> <td>山形県GAP研修会開催</td> <td>新規</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>④土づくり推進事業</td> <td>エコ有機センターの堆肥製造</td> <td>継続</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				事業名	主な内容	区分	未来事業の選択	①人と環境にやさしい農業推進事業	・消費者交流と首都圏イベントへの参加 ・ローカル認証によるブランド化 ・低コスト省力化等実証圃設置 ・成分分析 ・取組み農家・組織の育成 ・お米コンクール上位者による産地米のイメージアップ	新規	○	②-1オーガニック・エコ農産物産地拡大事業	・有機農業へのステップアップ支援 ・ブランド化推進 ・首都圏消費者へのPR ・研修会の開催 ・有機展示圃の設置	新規	○	②-2鶴岡市農産物認証事業	JAS有機・市独自特裁認証	継続		③安全農業イメージアップ事業	山形県GAP研修会開催	新規	○	④土づくり推進事業	エコ有機センターの堆肥製造	継続	
	事業名	主な内容	区分	未来事業の選択																									
①人と環境にやさしい農業推進事業	・消費者交流と首都圏イベントへの参加 ・ローカル認証によるブランド化 ・低コスト省力化等実証圃設置 ・成分分析 ・取組み農家・組織の育成 ・お米コンクール上位者による産地米のイメージアップ	新規	○																										
②-1オーガニック・エコ農産物産地拡大事業	・有機農業へのステップアップ支援 ・ブランド化推進 ・首都圏消費者へのPR ・研修会の開催 ・有機展示圃の設置	新規	○																										
②-2鶴岡市農産物認証事業	JAS有機・市独自特裁認証	継続																											
③安全農業イメージアップ事業	山形県GAP研修会開催	新規	○																										
④土づくり推進事業	エコ有機センターの堆肥製造	継続																											
<p>枝豆などの土地利活用型作物を振興して水田における複合経営を推進し、稲作単作からの脱却を図ります。また、地場農産物を原料とした加工特産品の開発を推進します。さらには地域内の産直施設と連携し、生産者と消費者が互いに顔の見える環境を構築し、地場産農産物を中心とした販売の創出と地域の活性化を図ります。</p>	<p>○主な施策</p> <p>①枝豆作付50haの実現と茶豆ブランドの確立</p> <p>藤島地域は、大豆の作付面積が大きく大豆栽培のノウハウもあることから、栽培方法として類似している枝豆を最重点作物として推進します。また、「だだぢゃまめ」に次ぐ「茶豆ブランド」の確立をめざして現状24haから50haへ作付面積の拡大を図り、高品質に向けた取り組みを強化し、水稲との複合経営による農家所得の向上を目指します。</p> <p>②露地ネギ、軟白ネギの生産振興</p> <p>重点作物として露地ネギ、軟白ネギの生産振興を図ります。露地ネギは8～9月収穫の夏ネギを強化し、農家所得の向上を図ります。また、軟白ネギは農閑期に育苗ハウスを有効活用できるため、冬期間の収入増を見込める作物として取組みを強化します。</p> <p>③集出荷施設の整備と作業組織の育成</p> <p>藤島地域の特徴である稲作依存の単作経営から脱却し、園芸作物等を取り入れた複合経営への転換を進めるため、地域全体をカバーする共同利用の集出荷施設の整備をJAと共に推進します。</p> <p>また、集出荷施設の整備を機に枝豆の作業組織の育成にも取組み、効率的かつ安定的に作業を委託できる体制づくりを推進します。</p> <p>④農産物の加工推進</p> <p>地場産農産物の加工を推進し、ブランド化を図るとともに、地域産業の振興を目指します。</p> <p>⑤産直等の活用</p> <p>生産者がこだわりを込めた農産物であることを発信していくためには、地場産であることや、安全・安心の栽培手法であることを売り場で特徴づけて販売し、消費者に伝えることが効果的であることから、地域内にある産直施設を活用していきます。</p>	<p>○具体的な事業</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>主な内容</th> <th>区分</th> <th>未来事業の選択</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①②③園芸作物拡大支援事業</td> <td>枝豆・ネギ農業機械導入補助 集出荷施設等整備補助</td> <td>新規</td> <td></td> </tr> <tr> <td>④地域農産物加工推進事業</td> <td>地場産農産物の加工推進とブランド化</td> <td>新規</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>⑤施設管理事業（エコタウンセンターの管理）</td> <td>・施設管理と有効活用方策の検討 ・貸付受付事務</td> <td>継続</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(1)①人と環境にやさしい農業推進事業（再掲）</td> <td>・取組み農家・組織の育成 ・成分分析 ・実証圃の設置</td> <td>再掲</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>				事業名	主な内容	区分	未来事業の選択	①②③園芸作物拡大支援事業	枝豆・ネギ農業機械導入補助 集出荷施設等整備補助	新規		④地域農産物加工推進事業	地場産農産物の加工推進とブランド化	新規	○	⑤施設管理事業（エコタウンセンターの管理）	・施設管理と有効活用方策の検討 ・貸付受付事務	継続		(1)①人と環境にやさしい農業推進事業（再掲）	・取組み農家・組織の育成 ・成分分析 ・実証圃の設置	再掲	○				
事業名	主な内容	区分	未来事業の選択																										
①②③園芸作物拡大支援事業	枝豆・ネギ農業機械導入補助 集出荷施設等整備補助	新規																											
④地域農産物加工推進事業	地場産農産物の加工推進とブランド化	新規	○																										
⑤施設管理事業（エコタウンセンターの管理）	・施設管理と有効活用方策の検討 ・貸付受付事務	継続																											
(1)①人と環境にやさしい農業推進事業（再掲）	・取組み農家・組織の育成 ・成分分析 ・実証圃の設置	再掲	○																										

具体的な展開方策（3） 食農教育等を通じたふるさと意識の醸成 **【着眼点との整合：オンリーワンを目指すプロジェクトの実施】**

藤島地域は、庄内の代表的な産業である稲作農業の中心地であり、そのなかで特に人と環境にやさしい農業に主眼を置いた取り組みを今後も継続していきます。

こうした人と環境にやさしい農業により生み出される農作物の重要性を、食農教育や農業体験学習を通して子ども達に伝え、子どもたちが農業の未来に関心を持ち、魅力を感じ、地域への誇りと愛着を持てる取組みを行います。

○主な施策

①次世代を担う子どもたちの食農教育を通じたふるさと意識の醸成
 全国の小学生は、5年生時に、通常の授業において「米づくり」の仕組みを学習し始めており、藤島地域では授業に加え、田植から稲刈り、炊飯し食べるまでを実習でも学習しています。
 特に本地域では、有機農業などの人と環境にやさしい農業を推進しており、有機農家自らが炊飯授業時に環境保全型農業の重要性と田んぼや生き物の関わりについて講義します。

②水田による環境保全機能の学習
 地域及び首都圏の小学生へ田んぼの生き物調査を実施し、田んぼの生き物の役割と自然資源の重要性について学びます。

③地産地消の推進
 給食へ地場産野菜を提供している地元団体への技術向上支援と、新規作物の栽培試験を実施します。また、地産地消保冷庫や地元産直施設と連携し、地場産野菜の安定供給を推進するとともに農家所得の向上を図ります。また、地産地消イベントを開催し、地産地消意識の向上を図ります。

○具体的な事業

事業名	主な内容	区分	未来事業の選択
①環境保全型農業推進事業	小学校5年生対象出前授業の実施	継続	
②田んぼの生き物調査実施事業	田んぼの生き物調査の実施	継続	○
③-1地産地消推進事業	給食への野菜供給団体への支援、研修会の開催	新規	○
③-2地産地消イベント事業	地産地消イベントの開催	継続	

具体的な展開方策（4） 庄内農業高等学校・首都圏大学と地域との連携推進

庄内農業高等学校と地域、関係団体などが連携し、実業高校ならではの特色ある連携事業を展開し、魅力ある学校づくりを支援します。特に、将来、地域を担う人材育成を支援するとともに、同校卒業後の地元定着を図る取り組みを推進します。

また、藤島地域をテーマに学生と共に調査を実施している首都圏大学との地域連携事業も継続し、首都圏での農産物PR等を足がかりに、首都圏交流の拡大と地域の賑わい創出を図ります。

○主な施策

①庄内農業高等学校との地域連携の推進
 庄内農業高等学校地域連携協議会会員の連携を強化し、地域、関係団体に支援、協力を呼びかけ、庄内農業高等学校の更なる発展と魅力創出を図り、地域振興に繋がる事業を展開します。

②首都圏大学との地域連携の推進
 大東文化大学社会学部学生と地域の農業者や住民が連携して地域の活性化を推進し、人口減少の抑制や、地域の賑い創出を行います。

○具体的な事業

事業名	主な内容	区分	未来事業の選択
①庄内農業高等学校地域連携事業	庄内農業高校の発展と魅力創出を図る連携事業	継続	○
②首都圏大学・農業農村マッチング事業	大東文化大学生と連携しての地域活性化の推進	継続	○



田んぼの生き物調査

地域環境の再発見！H29 から非農家世帯も多くなっているため、保護者も含めた田んぼの生き物調査を実施



生産農家による首都圏出前授業

練馬区の4つの小学校で出前授業を行うとともに学校関係者へPR。



都内米穀店へ販路拡大

練馬区と協力し、独自認証米を販売店等にPR。首都圏の販売店によるマッチングフェア・商談会参加し販売促進、流通量の拡大を図る。



庄内農業高等学校地域連携事業

農福連携事業で、庄内農業高校玉川農園で、無農薬野菜栽培をメインとした観光農園づくり実施。苗の定植作業を地元の福祉関係者と行った。